

第13グループ報告⑧ 2017年7月10日(月) 報告:大島

「絆～3カ月間の自治労復興支援も終了」

いよいよ第13グループとして、そして自治労復興支援団としても宮古ホテル沢田屋さんを後にすることとなりました。

本来であれば、最後に全体で宮古市田老地区の視察を行って帰る予定でした。…が、出発直前の午前9時57分にM7.1の余震が襲い、津波注意報も発せられてしまったので、大事をとって視察は中止となってしまいました。



TVの地震ニュースを見つめる参加者

そこで急きょ、視察後に行う予定だった自治労支援団の解団式を沢田屋のロビーで行いました。

現地・岩手県本部の米内委員長は、「この間の全国の皆さんの支援に、感謝申し上げる。自治労全体の支援はこれで終了となるが、県本部としてはさらに1カ月の支援を決定した。この3カ月間の皆さんの取り組みに学びながら、引き続き被災単組を支えていきたい」と、感謝と新たな決意を述べました。



また、出発直前には宮古市職労・伊藤委員長も急いで駆けつけ「ちょうど3月11日もこうして地震で混乱を極めた。皆さんの3カ月にわたる支援に、本当に心から感謝申し上

げる。復興がなったあかつきには、あらためて観光でまた宮古にお越しください」と感謝の言葉を述べました。



ホテルを後にする時には、沢田屋の皆さんが総出で見送ってくれました。直前の余震では、皆さんトラウマもあってか表情も非常に強張っていましたが、最後には笑顔で目一杯手を振ってくれました。現地の宮古市職労さんも、横断幕を手に見送ってくれました。



ここまで熱烈に見送りをいただいたのは、われわれが最終グループだからというだけでなく、第1グループからの支援団総体による取り組みや姿勢、地域住民や職員の方々とのおふれあいなどの積み上げのたまものだと思います。

すでにブログの方にも道本部からの感謝のコメントも掲載されていますが、あらためて地本・単組・総支部のご協力と、組合員・家族の皆さんのご理解・ご協力に感謝申し上げます。

また、第13グループのメンバーの皆さん、大変お疲れさまでした。最終グループということで振られる仕事も多かったかもしれませんが、最後までやり遂げていただきました。本当にありがとうございました。

この取り組みで得た、道内の参加者や各県の参加者、そして被災地の職員や住民の方々との「絆」を今後も大事にしていきたい、また、今後も自治労北海道本部の取り組みへのご理解とご協力をいただきますようお願いし、第13グループの最後報告とさせていただきます。



最後に

いまでも頭に残る棟梁の叱咤激励の言葉・・・

「あと10叩き」(笑)

